

4人組

285

腕前は「遺伝子」だと
底抜けに明るい医学界の
4人組



(写真右から)
千葉大学 副学長 医学部長
中山俊憲
千葉大学 名誉教授
横綱審議委員
守屋秀繁
千葉大学 元学長 名誉教授
齋藤 康
千葉大学 学長
徳久剛史

学生時代にスポーツをする機会が少なくなったことから、九十九里浜でボールを打っていました。おかげでバンカーショットは得意になりました。初ラウンドは鹿沼CCでその時のスコアは57・57。以降それ以上は叩いていません。自分で天才だと思っただけです。

小学生のとき野球では、ライトで8番にもなれなかったのに、ゴルフは練習をしなければ下手になる、練習をしても上手くなるとはかざらないことから、ゴルフの腕前には「遺伝子」が深くかわっているのではないかと考え、同時にプレー後にその日のゴルフを反省し、練習をしなければ駄目だとも思いました。集中力も必要になりますね。

トリーバインズGCで76のベストを出した中山さんは、飛ばし屋で寄せも上手なゴルファー。この半年間で急成長しています。

スタンフォードの大学院にいたとき、日本から訪れる仲間のために大学内のゴルフ場予約をしていたというのが徳久さん。現在学長で多忙ですが、練習をよくする努力家ですね。

とある研究会のボスから「この研究会にいたいのならゴルフをすること」いわれて始めたのが齋藤さん。優しい人柄が現れたゴルフをします。

この4人でのプレーは、集中力を持続できないほど笑いが多くなり愉快に楽しめます。(守屋秀繁)

スタートホールでバー5をイーグルにして38・37だったラウンドが一番嬉しかったという守屋秀繁さんのゴルフ座右の銘は「一球入魂」。HC8.6でドライバー飛距離240ヤードの飛ばし屋は中山俊憲さん。ゴルフの目標は「師匠」である守屋さん。ゴルフはいつも楽しく、病後に18ホールをプレーできたことが一番嬉しかったのが齋藤康さん。月例会のCクラスで優勝したことが嬉しかったという徳久剛史さんの目標は「常に100を切ること」です。

撮影 三木崇徳

Printed in Japan
大日本印刷株式会社 印刷